

秦野市民親善訪問団 パサデナ市訪問の記録



2014.11.11-17



主催：秦野市、秦野パサデナ友好協会



1 日程表

日(曜日)	時間	行動内容	宿泊
Nov 11. Tue	11:45	秦野市役所集合	La Quinta Inn & Suite Pasadena
	12:00	秦野市役所発	
	14:00	成田空港到着	
	17:00	成田空港発 (UA6 便)	
	13:45	ジョージ・ブッシュ国際空港着 (税関審査通過後、パサデナ市へ移動)	
	16:00	ホテル着	
18:00	ウェルカム・ディナー		
Nov 12. Wed	9:30	リッチー・ストリート・バプテスト教会訪問	ホームステイ
	11:30	昼食	
	13:00	スパークス小学校訪問	
	15:30	ホームステイ先へ移動	
	18:00	歓迎パーティー	
Nov 13. Thu	10:00	ショッピング	ホームステイ
	12:30	昼食	
	13:30	ガルベストーン観光 (Moody Garden) 水族館、植物園見学	
	18:00	夕食	
	20:30	各自、ホームステイ先へ	
Nov 14. Fri	10:00	キャリア&テクニカル高等学校訪問	ホームステイ
	12:00	校内にて昼食	
	13:30	ショッピングモールで買い物	
	17:00	夕食	
	19:30	各自、ホームステイ先へ	
Nov 15. Sat	午前	各自、ホスト・ファミリーと自由行動	La Quinta Inn & Suite Pasadena
	14:30	ホテル集合、チェックイン (夜までフリー)	
	17:30	姉妹都市協会長・副会長との会談	
	18:00	さよならパーティー	
Nov 16. Sun	7:30	ホテル発	機内泊
	8:30	ジョージ・ブッシュ国際空港着	
	10:40	ジョージ・ブッシュ国際空港発 (UA7 便)	
Nov 17. Mon	15:50	成田空港着	
	17:00	成田空港発	
	19:40	秦野市役所着	

2

訪問団員名簿

NO.	氏名	役割	ホームステイ先
1	モチヅキ クニオ	団長	Eddie & Gayle Carter エディ&ゲイル・カーター夫妻宅
	望月 國男		
2	コジマ トモ	副団長	Ed & Janice Goad エド&ジャニス・ゴード夫妻宅
	小島 富雄		
3	カワグチ ヒロコ	記録	Ed & Janice Goad エド&ジャニス・ゴード夫妻宅
	河口 博子		
4	ムラカミ ユウ	事務局補佐	Ms. Charlotte Eads シャーロット・イーズさん宅
	村上 優		
5	ロツホ ^ン キ ^ン ヤスシ	記録	Eddie & Gayle Carter エディ&ゲイル・カーター夫妻宅
	六本木 康		
6	アオキ エツコ	記録	Ms. Mizuho Frye ミズホ・フライさん宅
	青木 悦子		
7	モリ ユキエ	写真	Ms. Mizuho Frye ミズホ・フライさん宅
	森 幸恵		
8	ヤマグチ ヤスオ	写真	Ms. Pat Dansby パット・ダンズビーさん宅
	山口 安男		
9	ワダ ルコ	記録	Ms. Mizuho Frye ミズホ・フライさん宅
	和田 典子		
10	ノ カオリ	通訳	Leon & Givvie Searcy レオン&ギヴィー・サーシー夫妻宅
	野呂 香		
随 行	タニヤ アキラ	事務局	Ms. Pat Dansby パット・ダンズビーさん宅
	谷屋 彰		
随 行	サウ ミチコ	事務局	Ms. Pat Dansby パット・ダンズビーさん宅
	佐藤 理子		

11月11日(火)・1日目

午前11時45分、望月団長をはじめ12名全員が秦野市役所3階の会議室に集合し、パスポートのチェックなど最終確認をした。秦野パサデナ友好協会の皆さん、訪問者のご家族の方が見送りに来ていた。

出発の前に、八木副市長からご挨拶があり、「皆さんは、秦野市とパサデナ市の姉妹都市提携が50周年を迎えることを記念し、秦野市民の代表としてパサデナ市を訪問されます。パサデナ市民と交流を深めることにより、半世紀にわたる両市の友好と親善の歴史を両市民でともに祝うとともに、両市の絆をさらに深めてきてください。」と激励いただいた。その後、たくさんのお見送りの皆さんに別れを告げ、バスに乗り込み秦野市役所を出発した。

バスの中では、望月団長から「健康を第一に、訪問の趣旨をふまえがんばりましょう。」とのお話があった。バスは東名高速道路に入りその後も順調に進み、午後2時ごろには成田空港第1ターミナルに到着した。搭乗手続きを済ませた後、各自両替をし、出国ゲートへ向かった。午後5時、私たちが搭乗したユナイテッド航空6便は、ヒューストンへ向け成田空港を離陸した。

約12時間のフライトの後、UA6便は無事、ジョージ・ブッシュ国際空港に到着。冬は15時間の時差があるため、現地時刻はまだ11日(火)の午後1時半過ぎだった。入国審査を終えゲートを出ると、パサデナ姉妹都市協会の皆さんから熱烈な出迎えを受けた。再会を感激する人でたちまち輪ができ、これこそ友好の一步だと思った。団員一人一人に花(黄色いバラ)をつけていただき、大変感激した。協会が用意してくれたバスに乗り込み、一路パサデナ市に向かった。

私は、懐かしい風景を思い出しながら窓を眺めているうちに眠ったらしく、いつの間にかホテルに到着していた。チェックインを済ませ少し休憩を取った後、ウェルカム・ディナーに出席するためロビーに集合し、バスでホテルを出発した。

会場となるお宅に到着してなんとびっくり仰天。シャーロット・イーズさんの家で、25年前、自分がここでお世話になったことを思い出した。美味しそうなTex-Mex(メキシコ風テキサス)料理がbuffet形式で用意されており、さっそく料理をお皿に盛り食べた。ゲイル会長と望月団長のあいさつがあり、記念品のプレゼントも行われた。食事が始まると次第にあちらこちらから歓声が上がり、パーティーは大いに盛り上がった。私には、25年という時は感じられなかった。(記録担当：六本木)



11月12日(水)・2日目

ホテルで朝食をとった後、バスで移動して、リッチー・ストリート・バプテスト教会に向かった。教会に到着後は、J・Dハーバード牧師から秦野とパサデナが姉妹都市提携するに



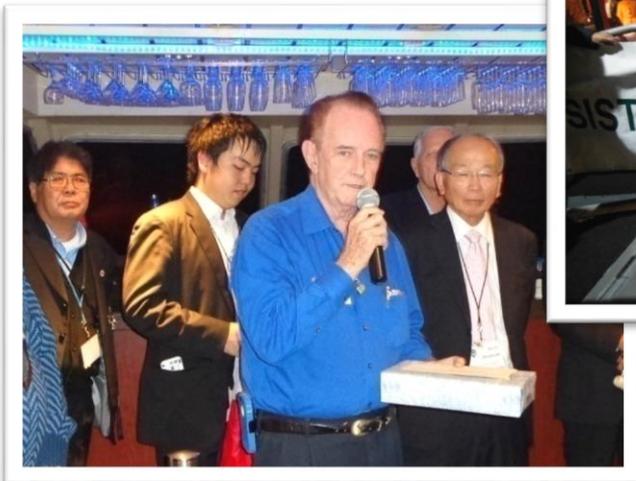
至った1960年代当時のお話を伺った。「軍人として飛んだ日本上空を、牧師という全く異なる立場・気持ちで再び飛んだことが感慨深かった」というお話がとても印象的だった。その当時からの教会のメンバーであるバークさんから教会の歴史をまとめた冊子やペン、リストバンドなどのお土産をいただき、姉妹都市提携50周年を記念して集合写真を撮影した。その後、Ernie'sというレストランでランチをいただいた。

昼食後は、スパークス小学校を訪問した。入口で小さな国旗をはためかせて「こんにちは」と元気に生徒が迎えてくれた。訪問日の前日がベテランズ・デー（退役軍人の日）で祝日であったため、約80名の3年生の生徒たちが「Let's Sing, America!」など、ベテランズ・デー・コンサートの曲を披露してくれた。その後、シェリー・ミーンズ校長先生に体育館や図書室、音楽室など、学校内を案内していただいた。職員の休憩室でアイスクリームをごちそうになった上に、生徒たちが絵を描いてくれた紙袋に入ったスパークス小学校のグッズなどのお土産をいただいた。



その後、各々のホームステイ先に移動して、しばし休憩をとった後、昼食をとった Ernie's の駐車場に集合してバスを乗り換え、歓迎会会場である Kemah へ向かった。

パサデナ市主催歓迎晚餐会はディナークルーズだった。ジョニー・イズベル市長をはじめとする市の職員や関係者の方々が、温かく迎えてくださった。各テーブルでお食事とお話を楽しんだ後に、パサデナ市や商工会議所からたくさんのお土産をいただいた。また、古谷秦野市長や秦野市民の皆さんのメッセージビデオを流し、私たちも前に出て一人ひとり、自己紹介を兼ねて感謝の気持ちを精一杯述べた。最後は望月団長が感謝とこれからの50年の友好関係を祈念したスピーチで締めてくださいました。歓迎晚餐会終了後は各々のホームステイ先へ帰宅した。（記録担当：和田）



アメリカに大寒波が来ている。思えば行きの飛行機もかなり揺れた。テキサスには不似合いな寒さである。ホストファミリーの方にマフラーをお借りした。

今日最初の目的地は、アウトレットモール。到着してバスから降りると外は凍えるほどの寒さ。寒波さえ来ていなければ、超お買い得のブランド品で飾られたショー・ウィンドーを楽しく見て回る観光客で混雑するはずだが、この日は閑古鳥が鳴いていた。

次は Buc-ee's でのショッピング。日用品・雑貨・食料品などが充実しているので、訪問団員は日本へのお土産を主にここで買った。この日のランチは Buc-ee's の店内にあるファスト・フード店でテイクアウト。各自、タッチパネルで好みのホットドッグやハンバーガー、タコスなどを選び、パネル横にあるプリンターから出てくる紙片を持ってカウンターに行き、お金を払って注文した物が出来上がるのを待つという仕組み。タッチパネルは7～8台あるので、日本のようにカウンターに並んで順番を待つ必要がない。便利なシステムだと思った。飲み物はドリンクコーナーで好きな物を1本ずつ選び、バスの中でいただいた。



午後は シーウォール散策の予定を、寒さのため Moody Gardens 観光に変更した。暖かい館内で珍しい動植物をゆっくり見学する事ができた。7年前に来た時と少し様子が違っていたので係の人に聞いてみると、この7年間に大きなハリケーンの被害を受け、補修・改築をしたようだ。

その後、予定にはなかったフェリーに乗船。フェリーのスクリュー音に惹かれて集って来た3～4頭のイルカを見られてとても幸運だった。エビ料理で有名な Bubba Gump で夕食。ホームステイ泊。(記録担当：河口)



今日は朝から Career & Technical High School (CTHS)を見学した。到着するとまず、生徒用カフェテリアに目を奪われた。料理を作るのもサービスするのも CTHS の生徒たちだ。その後見学者のためのパンフレットとプレゼント (CTHS のタオル・ボールペン・腕輪) をいただき、2班に分かれて校内を詳しく案内してもらった。

CTHS は8月に開校したばかりの職業訓練高校で、下記の6つの専門領域、24のコースからなっている。

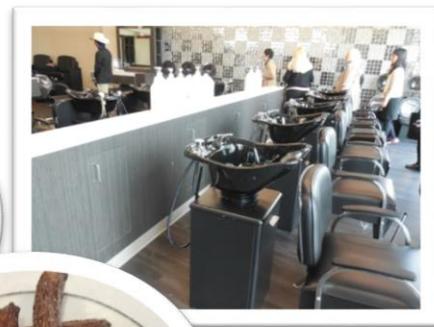
- ① Agriculture ② Business & Human Services
- ③ Health Services ④ Manufacturing & Construction
- ⑤ Technology & Engineering
- ⑥ Transportation & Shipping

一期生は950人で志願者2500人から入学試験(成績・出席率・協調性・エッセイ)で選抜されたそうだ。公立高校なので授業料は無料。パサデナ市内に住む生徒しか入学できないので、パサデナ市全域から通学できるように毎日スクールバスを100台走らせているというから凄い!!この学校設立にかかった費用は48億ドル、約5,000億円!!日本で小学校1つが約20億円。この学校に賭ける気持ちが伝わってくる。

見学コースは料理から始まってフォークリフトの使い方・船舶関係・自動車修理・溶接工・ロボット製作・3Dプリンター・コンピューター設計・テレビ・ラジオ中継基地・模擬裁判・科学捜査・美容師・保育士・救急救命士・フラワーデザイン・農業・獣医…とありとあらゆる職業訓練の現場を見せていただいた。特に印象に残ったのは、どの教室に行っても生徒たちのキラキラ光る目といつもニコニコと微笑んでいる姿だ。

見学が終るとお楽しみが待っていた。調理士を目指す生徒たちが私たち日本人のために用意してくれたランチをご馳走になった。数日前から「日本」を題材に料理のテーマ、メニュー、盛り付けなどを生徒たち自身が考えていてくれたそうだ。「日本」=「鳥居」という事でトルティーヤの細巻き揚げ物3本に付け合せ。デザートはチュロス3本にチョコレート・アイスクリーム。全て生徒たちの手作りで料理をサーブしてくれるのも全て生徒たち。最後に生徒全員17~18人が厨房から出て来てくれて、私たちの質問タイム。日本に行っても日本で仕事がしたいという生徒もいて、とても和やかな雰囲気だった。

パサデナ市の教育長もお忙しい中、私たちのためにわざわざ駆けつけてくださり、とても感激した。午後は Baybrook Mall でショッピング。夕食は Johnny Tamales でメキシコ料理を堪能。ホームステイ泊。(記録担当: 河口)



ホームステイ最後の今日は、各自ホストファミリーと自由に過ごした。ゴードさん夫妻宅にステイした小島さん、河口さんは、日本から持ってきた材料を使ってカレーライスを作りごちそうした。通訳の野呂さんは、レオンさんの大好物のかけうどんを作り、サーシーさんご夫妻はとても喜んでくれたそうだ。村上さんはホストのシャーロットさんにハードロックカフェに連れて行ってもらった。ミズホ・フライさん宅にステイした森さん、和田さん、青木は、アメリカ文化に触れてもらいたいというミズホさんのご好意で、昼食に手料理をもてなしていただいた。サンクスギビング・デー風のメニューの七面鳥に見立てたハムや、デザートトライフルの大きさと美味しさは忘れられない。望月団長をはじめとする残りのメンバーは、カーターさん夫妻とパット・ダンスビーさんとともに、シャーロットさんのご両親で長年両市の交流に尽力されたイーズさん夫妻のお墓参りに行った。

午後2時30分、ホストファミリーに送られホテルに行き、他のメンバーと合流。チェックイン後、各自の部屋にて荷物の整理を行った。さよならパーティー直前、事務局の部屋に集合し皆で出し物である歌の練習をした。



午後6時、さよならパーティー開始。ホームステイ先の家族と協会のメンバーがホテルの会議室を飾りつけ、私たちを迎えてくれた。パーティーにはテキサススタイルというテーマがあり、カウボーイ・ハットをかぶったりテキサス旗柄のバンダナを身につけたり、それぞれに工夫を凝らして参加した。座席には会員の好意で各自のネームプレートが用意されていた。始めにゲイル会長

からあいさつがあり、テキサス州在住の画家による日本とテキサスの友好をイメージした絵が望月団長に手渡された。ビュフェスタイルの食事後、団員の河口さんが持参したウクレレで歌と演奏を披露し会場が盛り上がったところで、全員で練習をした私たちの出しもの「線路は続くよどこまでも」を合唱した。歌詞は50周年を記念するパサデナ友好協会バージョンの替え歌になっており、パサデナの人たちには事前に作られた英訳のコピーを渡した。

最後に、望月団長が滞在中のもてなしへのお礼のあいさつを行った。そして、「線路は続くよどこまでも」に合わせて皆で汽車ごっこをし、列を作って鉢合わせをした所でジャンケンをし、負けた列が勝った列に付き、最後は全員で1つの列になって会場を1周した。今日が会うのが最後となるメンバーとの別れを惜しみつつ、プレゼント交換をしたりして最後の夜を楽しく過ごした。

パーティー終了後、荷物の重量が多くなりそうな分は、市の土産品を入れてきたスーツケースに入れてもらったり最後の荷物作りをして、明日の出発に備えた。その際、改めていただいたお土産の重さに驚いた。(記録担当：青木)

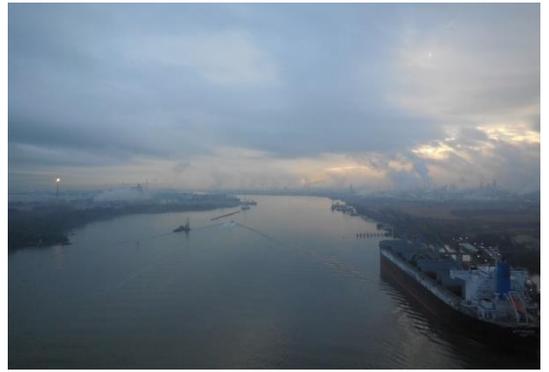


11月16日(日)・6日目

パサデナは例年になく寒い天候で2月の気温と言われた。テレビでは雪が降った州の報道をしていた。早朝よりホームステイ先の家族はホテルに来てくれた。バスはホストファミリーや姉妹都市協会のメンバーと私たちを乗せて一路ヒューストン・ブッシュ国際空港へ。

空港ではいただいたお土産で、重量オーバーになったスーツケースも出た。急きょ手荷物に切り替えて追加料金の支払いを免れる。手続き中もパサデナの皆さんはずっと手を貸してくれた。誰もが別れを惜しみながらハグをしたり写真を撮ったりしていた。

その後手荷物検査に足を進めて、ホストファミリーたちとも別れた。特記すべきことは、交流に永く関わっておられる重鎮のミッキー・ロフテンさんは、高齢にもかかわらずフロリダから駆けつけて、ホテルに泊まって終日行動を共にしてくれたことである。(記録担当：青木)



11月17日(月)・7日目

飛行機は復路も乱気流に悩まされた。それぞれにパサデナでの興奮も冷めやらぬままユナイテッド航空7便は成田へと向かう。ほぼ予定通り、無事に成田に到着した。荷物も受け取り税関検査もスムーズに終え、迎えのバスに乗り込む。

無事に着いた安堵感と疲れで眠っているのか、バスの車内は静かであった。高速道路も順調な流れで秦野に向かう。それぞれ家族に無事に到着した連絡をしたりして、やがて秦野インターから市内へと入った。市役所前に横付けされると市の関係者や友好協会の方々と家族が、寒い中を出迎えてくれた。市のロビーで労いの言葉をいただき、各自家路に向かった。

最後に、この訪問中に病気や事故も無く過ごせたことは幸いであった。(記録担当：青木)



団長 望月 國男

このたびの訪問は私にとって6回目の訪問であるが、今回の訪問の意義を集約すると次の3点になろう。

①50周年という長い歴史を再確認できたこと。

②姉妹都市の扉を開いてくれたハーバード牧師にお会いできたこと。

③今後50周年に向けて交流を続けることが確認されたこと。

①については、パサデナ市側は50周年をかなり意識して迎えてくれた。市と商工会議所が共催してメキシコ湾でディナークルーズを開いてくれた。市からはイズベル市長、スコット地域関係部長、市議会議員や幹部、商工会議所側からは女性のウォマック会頭など多くの関係者など総数90名余が参加した。こうしたおもてなしは今回初めての経験で、和やかな楽しい雰囲気の中で、参加者は今後50年に向けての新たな友情を深めることができた。さらに、カーク・ルイス教育長がお忙しい中、職業訓練高等学校にわざわざ私たちのために駆けつけてくれ、これも今までにないことであった。

②については両市の姉妹都市の縁結びをしてくれた、ハーバード牧師にお会いできたことである。92歳というご高齢であるが、川上牧師のこと、小田原女子短期大学からご功績が認められ、名誉博士の称号が授与されたことなど、当時の思い出話などを語ってくれた。今後末永く交流は続くが、生みのご苦勞をされた両牧師のご努力を私たちは次の若い世代に語り続けなければならない。

③については、パサデナ市や姉妹都市協会の幹部と話し合いを持ったが、今後も交流を続けていくことが確認された。

秦野とパサデナ市の交流の原点は、何といても人と人とのふれ合いである。両市の市民は今まで一つひとつの出会いを大切にして、行き来を絶やすことなく積み上げてきたことが、今日の成果に結びついていると確信する。これからも市民同士の草の根交流の意義と可能性を確認し、両市は歩み続けなければならない。



副団長 小島 富雄

1. 熱烈歓迎と熱烈『オ、モ、テ、ナ、シ』

歓迎会の時、会員宅の広いリビングを使い、その主人による手料理、そして送別会の時の自作の演出やお土産、さらに到着時から出発時まで、それこそ朝から晩までつきっきり、中には遠く、フロリダからやってきてホテルに泊まりこんでまでの熱烈「オ、モ、テ、ナ、シ」の人も。

どちらかという私と同様、高齢者の部類に入るであろうパサデナ市側の接待者、私たちが帰国した後、寝込んでしまわなければよいかと案じられるような熱烈歓迎ぶり。これには参った。当方いたく感激、熱烈感動。

2. 温故知新

古きを訪ねて新しきを知る。パサデナ市との交流が始まって半世紀、50年の月日が流れた。これまで多くの方々のご努力により両市の交流が維持されてきたと聞く。過ぎ去った50年の歴史を糧に、新しい2廻り目の50年の歴史をどう構築してゆくかが問われている。よく山で道に迷ったら、もと来た道を引き返せといわれる。そんな折、もと来た道ともいえる交流の原点でもあるリッチー・ストリート・バプテスト教会を訪問し、ハーバード牧師との面会が実現したことは意義深い。

3. 一蓮托生

老若男女、老壮青、職業、立場多種多様。ついひと月前までは一面識のないこの親善使節団の面々が、たった7日の期間に実に絶妙な集団に変わった。それは同じ目的意識を持った仲間意識からくるものだろうか？ある時は、まるで家族同様の親しみを伴い、ある時には辛辣なジョークも飛び出す時もあった。パサデナ市側の仲間との交流も忘れえぬ思い出となるであろうし、同時に今回同じミッションとして旅をした仲間との交流も忘れえぬものとなった。私にとって新しい財産がもう一つ増えた。



記録 河口 博子

パサデナ訪問は今回で2度目。7年前と全く変わらない。パサデナ協会メンバーの方々の熱烈な歓迎ぶりにとても感動しました。学校や教会、ホームステイ先と、どこでもいつでもパサデナの人たちの明るく優しい笑顔があふれていました。

私が今回ちょっと変化を感じたのは、ジャニスさんに“Mi casa, su casa.”というフレーズを教えていただいた時です。スペイン語で「私の家はあなたの家」、「自分の家だと思ってくつろいで下さい。」という意味ですが、あちこちで何回もこのフレーズを聞きました。

7年前にはヒスパニック系住民の増加に少々困惑気味だったパサデナが、「仲良く一緒に生活できるよう、力強い1歩を踏み出したな」と頼もしく思いました。

「ミ・カサ ス・カサ」。希望ある合言葉です。

今回が2度目の訪問ということで、前回よりも周りを見て動くことを意識しました。役割も「事務局補佐」だったので、全体を見ることを求められる役割だったように思います。実際にはビデオや写真の撮影をすることが多かったので、参加者の皆さんが同じくらい映るように心がけました。前はただ流れに乗って動いていただけですが、今回は周りの動きを見て動くことができたのではないかと考えています。

交流については、今回は個人的に少し積極性が足りなかったと感じています。前は初めての海外経験だったこともあり、自分の力を試すいい機会だと思って積極的に向こうの方々に話しかけていました。それに比べて、今回は前回に比べて日本人参加者との会話が多くなってしまいました。しかしそれではもったいないと感じ、2日目くらいからは向こうの方々にも話しかけるように心がけました。ホストファミリーとも最初は会話が途切れ途切れになることが多くありましたが、せっかくの英語を使うチャンスだからと開き直って積極的に会話するようにしました。すると次第に他の人にも話しかけられるようになり、ディナークルーズでは日本人の少ない席に座って会話にチャレンジすることができました。向かい側に座っていた方がパサデナの図書館に勤務しているらしく、訪問団の来訪に合わせて図書館で日本に関する展示を行っていることなどを教えてくれました。こちらも秦野市に「パサデナ通り」があることを伝えたりするなど、お互いの情報を交換することができました。実はこのパーティーに行くときにネクタイを忘れてしまい、頂いたバンダナ（テキサス州旗デザイン）で代用しました。自己紹介の時にそれを首から外して使ったところ、思っていたよりも好評で嬉しかったです。

今回は姉妹都市提携50周年ということで、このような節目の年にパサデナを訪問させていただいて嬉しく思います。パサデナで見せていただいたおもてなしの心を、今度はこちらからお返ししたいと思います。本当にありがとうございました。



記録 六本木 康

秦野市とパサデナ市の姉妹都市提携50周年の節目に、望月団長をはじめとする12名の一員として訪問できたことに喜びを感じました。私にはいつまでも記憶に残るだろうと思います。あらためて、訪問に対してご尽力くださった皆様に感謝申し上げたいと思います。

両市の絆を深めてきてくださいという宿題をいただいて、緊張と不安の中でパサデナ市を訪問しました。5泊7日という日程でゆったりとしたスケジュールで、余裕を持って行動できました。私にとっては非常に良かったと思います。

1日目は緊張するだろうなと思いながらゲートに向かいました。そこに待っているのはアメリカ人独特の陽気な飾らない歓迎でした。緊張感が吹き飛んでしまいました。握手をし、抱き合い「ようこそパサデナに…」日本にいるみたいな感覚になり自然と中に入り込めました。

また、ウェルカム・ディナーがシャーロット・イーズさんの家で行われたということも緊張感をほぐしました。私にとって一番安心できる場所であると思いました。ディナーでは、片言の英語と日本語で交流を深めました。自分なりに、よく考えてみると、50年という長い年月の交流が育ち、どなたが訪問しても、そうなる雰囲気になっているのだろうと思いました。

ホームステイでは、望月団長と一緒に何も困ることはありませんでした。3日3晩ミニパーティーで、毎日楽しい思い出しか残っていません。エディ&ゲイル・カーター夫妻には感謝してもしきれないと思っています。最後にバーバラ・イーズさんのお墓参りができたこと。また、25年前、ホームステイをしたヒロコ・ランバースさんと電話でお話しができたことも思い出の一つです。パサデナ市訪問を企画した、秦野パサデナ友好協会の皆さん・事務局にはたいへんお世話になりました。ありがとうございました。



記録 青木 悦子

初めてのパサデナ訪問が姉妹都市提携50周年という記念の年であったのは幸運でした。受け入れてくださった協会メンバーの方々は、ご高齢にもかかわらず、温かく細かな心遣いをしてください驚きました。ある日拙い英語で感謝を伝えると「秦野の歓迎はもっとすごいよ」と言われました。私共がこの様に迎えられるのは、長い間積み重ねられた相互の信頼関係がしっかりと築かれてのことで理解出来ました。

テキサスは広大で人々の気持ちも大らかな感じを受けました。市主催のディナークルーズで話をした商工会議所の方やホームステイ先の家族との触れ合いも良い思い出となりました。また、18年以上も前に来秦された元議員さんとお会いできたことも嬉しい出来事でした。

これからは微力ながらパサデナでの経験をご近所の子供達や友人に伝えていきたいと考えています。この度迎えてくれたパサデナの協会メンバーや私を送り出してくださいました市役所、及び秦野の友好協会関係各位と11名の団員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

「百聞は一見にしかず」今回のパサデナ市訪問で、まさにこの言葉を実感しました。自分でその場に足を運び、そこに住む人々と時間を共有することでこそ見えるものがあると強く感じた旅でした。

まず感じたのは、アメリカの広大な土地と同じように広い心を持った大らかで明るい人々のホスピタリティ。たくさんのプレゼントや豪華な食事などにも感動しましたが、遊び心のあるアメリカ流の人を楽しませるおもてなしの方法（イルカを見ようという試みで急遽フェリーで対岸まで往復したことなど）が印象に残っています。日本人流のきめ細かい気配りのあるおもてなしは世界に誇れるものだと思いますが、心に余裕を持って人を迎え入れるということも大事だと気づかされました。

さらに学校訪問などを通して、大きな家や広い道路、巨大なプラント…大国アメリカのイメージそのものの景色を見るだけでは分らない人種や貧困問題、教育環境について触れることが出来たのも貴重な体験となりました。メキシコからの移民受け入れや英語を話せない子ども達に対するバイリンガル教育など、島国である日本との環境の違いを感じました。スパークス小学校の体育館の壁に色々な種類のボールが描かれているのを単純に可愛いなと思って見ていたら、ボールの絵は子ども達をその前に並ばせるために使うという話を聞き、実用的だと思う反面、子どものしつけに対する考え方の違いのようなものを感じました。

そして、テキサス州と日本が歴史上の繋がりがあったことも新たな発見でした。100年ほど前にヒューストン近郊には多くの日本人移民が居たということ。コバヤシロードという通りがあったり、モールやアウトレットの従業員のほうが自分の祖母が日本人だと教えてくれたり、何の共通点もないと思っていたテキサスがぐっと身近なものに感じました。

実際に現地の暮らしに触れることで、普通の観光旅行とは違った多くことを経験することが出来ました。海外に出るという経験は、日本に居ては気づかない日本の良さや問題点を教えてくれます。今後も姉妹都市交流を通して、こういった経験を多くの秦野市民（特に子ども達）に持って貰う機会があることを望みます。

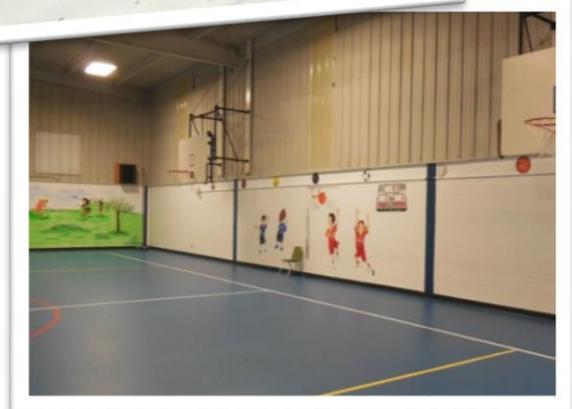


写真 山口 安男

今回のパサデナ市への訪問に際して行われた事前の打ち合わせの時に、望月会長より50周年の記念の行事であることと、団員が団結して楽しい旅行ができることを希望しますと挨拶されたことが印象深く思いました。人員12名で男女同数と訪問団としては丁度よい人員で、年代層も若い人、中堅、年配者と構成員も配慮されていました。

パサデナ市と商工会議所主催の歓迎パーティーは洋上クルーズで、パサデナ湾の夜景を見ながら楽しいひとときを送ることができました。夫婦で来てくださっている方が多く、市長始めフランクな雰囲気です。パーティーに慣れたアメリカ人を見ることができました。パサデナ姉妹都市協会のさよならパーティーは横断幕や私達の顔写真での紹介、並びにお土産の多さに驚きを感じ、こちらのお土産が少なかつたと思う程でした。パーティーでは河口さんのウクレレとアロハでの踊りや、メンバー全員で「線路は続くよどこまでも」の歌を披露し、参加者全員で輪になって踊ったり等、楽しいひとときを過ごし、さよならパーティーとして意義深いものでありました。

最後に、この50周年記念となる訪問に参加できたことを関係者並びに同行された方々に感謝し、併せてパサデナ姉妹都市協会の皆様の協力で楽しい旅行ができたことにも感謝し、今後100年に向けて秦野市とパサデナ市の友好と親善の絆がさらに深まることを祈念しつつ、私なりに何が出来るかを考察し、微力ながら協力できるよう努めてまいりたいと思います。



記録 和田 典子

異なる世代の方々との姉妹都市親善訪問は想像以上に楽しく学び多き時間でした。多くの貴重な経験をさせていただき、思い出深い出来事ばかりですが、昨今日本で注目されている「おもてなし」という言葉の意味を深く理解する旅であったと、振り返って感じます。

1週間の短い滞在期間中、沢山の方々から数々のおもてなしを受けました。それらに共通していえることは、①相手にとって何が最良であるか考えること②心を尽くして準備すること、③表現することの3つであると考えます。

どれも大切な要素ですが、とりわけ、③表現することが重要だと思います。いくら頭の中で思いをめぐらせても、最終的に相手に伝わるよう表現できなければ、おもてなしとしては不十分だからです。

パサデナの皆さんは、表現に非常に長けていらっしゃいました。それは食事や贈り物に限らず、ときに言葉であり、ときに行動でした。言語や文化が違うからこそ、伝えようとよりそう気持ちも強くなるのかもしれませんが。

また、おもてなしを受ける側も、感謝の気持ちをその都度表現することが重要だと思います。私は今回が初めての参加でしたが、また必ずパサデナを訪れたいです。そして、より多くの市民に姉妹都市交流の活動を知ってもらい、さらなる50年につなげていければと切に感じます。

今回、秦野とパサデナの姉妹都市交流が生まれるきっかけとなったリッチー・ストリート・バプテスト教会（Richey Street Baptist Church）にて、あの伝説のハーバード牧師にお目にかかることが出来、どのようにこの姉妹都市交流が始まったかという知られざるストーリーを直接牧師の口から伺うことが出来たことは、50周年記念の公式訪問にふさわしいとても大きな意味をもった貴重な経験となった。

今回は通訳として参加したこともあり、彼の語る一言一言を噛み締めながら、50年間の秦野とパサデナの交流が本当にたった一人の日米両国の牧師同士の交流から始まったことに深い感動を覚えたのと同時に、歴史的瞬間に立ち会っているような不思議な感覚に包まれたのが忘れられない。

特に印象的だったのが、「かつて自分が戦時中に空軍の兵士の一人として日本軍と闘ったときに眺めていた空を、その何十年後かに、今度は宣教師という全く違う立場で眺めながら日本へ向けて飛んでいたことに神の導きと使命を感じた」という牧師の言葉だ。

戦争では敵国同士だった二つの国の歴史を超えて、テキサスというアメリカー広大な州の小さな市の小さな教会の若き牧師の決断と行動が今の両市の友好50周年という壮大な姉妹都市交流の源泉となっていたことを肌で実感し、胸が熱くなる思いがした。あの瞬間をもう一つの源泉である川上牧師と共有出来ていたら！と願ったのは私だけではなかったのではないかと思う。

この沢山の思いが詰まった姉妹都市交流を次世代に橋渡しをしていく使命を担っているのが今回参加した私たちでもあり、それぞれの市が抱える経済的または文化的な壁を乗り越えてこの交流を更に深い絆にしていけたらと願っている。



（１）市の概要

パサデナ市は、アメリカ合衆国テキサス州ハリス郡にあり、人口は149,043人（2010年現在）で、ハリス郡内では2番目、テキサス州内では17番目、全米では162番目に大きな都市です。

NASA（米国航空宇宙局）で有名なヒューストン市の南側に位置し、ヒューストン市のベッドタウン的性格を備えた工業都市です。

市内にはパサデナ歴史博物館、バイエリア博物館およびアーモンド・バイユー自然センターなど幾つかの博物館があります。また、市民劇場があり、パサデナ交響楽団が活動し、毎年ロデオ大会が開催されています。

現在の市長は、ジョニー・イズベル氏（右写真）です。



（２）パサデナ市の教育

小中学校、高校などの教育行政は、市役所とは独立した組織である「パサデナ独立学区（Pasadena Independent School District）」が管轄しており、その長としてスーパーインテンドント（学区長、教育長）がいます。

現在の教育長は、カーク・ルイス氏です。

独立学区が管轄する区域とパサデナ市の区域とは必ずしも合致せず、独立学区はヒューストン市など近隣市の一部を含んでいます。児童・生徒たちは、基本的にスクールバスでの通学となります。

パサデナの教育形態は、キンダーガーデン（幼稚園。小学校に併設）が1年または2年、エレメンタリー・スクール（小学校）が4年、ミドル・スクール（小学校）が2年、インターミディエイト・スクール（中学校）が2年、ハイスクール（高校）が4年となっており、高校まで義務教育です。学区内には、エレメンタリー・スクール35校、ミドル・スクール8校、インターミディエイト・スクール10校、ハイスクール6校があります。

● 秦野とパサデナの教育形態の比較

年齢	パサデナ独立学区		秦野市	
5歳	プリ・キンダーガーデン		幼稚園	年中
6歳	キンダーガーデン		幼稚園	年長
7～10歳	エレメンタリー・スクール	1～4年生	小学校	1～4年生
11～12歳	ミドル・スクール	5～6年生	小学校	5～6年生
13～14歳	インターミディエイト・スクール	7～8年生	中学校	1～2年生
15～18歳	ハイスクール	9～12年生	中学校	3年生
			高校	1～3年生

(3) 姉妹校について

現在、2小学校、1中学校が、パサデナ市の学校と姉妹校提携を結んでおり、児童・生徒の作品交換などの交流を行っています。

- ・【1985年提携】

広畑保育園 - セントピータース・エписコパル幼稚園 (※現在閉園)

- ・【1984年提携】

本町小学校 - テーグ小学校

Teague Elementary School

Principal: Valorie Morris (校長: ヴァロリー・モリス)



- ・【1987年提携】

西小学校 - スパークス小学校

Sparks Elementary School

Principal: Sherri Means (校長: シェリー・ミーンズ)



- ・【2009年提携】

渋沢中学校 - トンプソン中学校

Thompson Intermediate School

Principal: Toni Lopez (校長: トニー・ロペス)



(4) パサデナ姉妹都市協会

パサデナ市との交流の窓口は、市民団体である「パサデナ姉妹都市協会」が担っており、パサデナ市や学校等との連絡調整や、訪問の際の各種手配などを行っています。

- ・会 長 ゲイル・カーター Gayle Carter
- ・副会長 プルデンシオ・レイナ Prudencio Reyna
- ・会 計 ジャニス・ゴード Janice Goad
- ・書 記 メロディ・タニガワ Melody Tanigawa
- ・副書記 ミズホ・フライ Mizuho Frye



Gayle, Prudencio, Melody, Mizuho and Janice

秦野市・パサデナ市姉妹都市提携50周年記念事業

秦野市民親善訪問団 パサデナ市訪問の記録

編集発行 秦野市暮らし安心部市民自治振興課

〒257-8501 秦野市桜町1-3-2

TEL 0463-82-5118

平成27(2015)年2月